平成 22 年度第 4 回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会

日時:平成 23 年 2 月 15 日(火) 13 時 30 分～15 時

会場:石狩市役所 402 会議室

出席:安田秀子(会長)、瀬野一郎、石川 治、今中建男、松島肇、萬谷優子

事務局:有田英之(センター長)、内藤華子

傍聴者:なし

議題:1.平成 23 年度事業について

2.シップ原生花園の保全について

3.その他

資料:1.平成 23 年度事業計画案(別紙:海辺の風景再発見事業概要案)

2.シップ原生花園の保全に関する経緯 2-2 シップ原生花園の保全について

会議録

1.平成 23 年度事業計画案

内藤 <資料説明>

資料補足。1.普及啓発活動 1)海辺の風景再発見事業について、石狩浜利用者の多数を占める札幌の住民を含めて啓発を図ること、保全活動を支える支援者を集めることを目指し、フォーラム、観察会、市民参加型調査の三本立てで開催。フォーラムについては札幌開催。日程は 5/29(日)午後、会場はかでの 27、内容は基調講演とパネルディスカッション、定員は 150 名。講師、パネラーへのお願いはほぼ承諾を得たところ。基調講演として、積丹でダイビングショップを主宰して海中映像による海の環境保全に関する啓発活動を行っている藤田尚夫氏、パネルディスカッションパネラーでは、自然史、歴史、博物誌的なテーマでいしかり砂丘の風資料館の志賀健司学芸員、保全と将来像について当運営委員でもある北大の松島肇助教、海辺の自然体験活動の可能性や実践例として NPO 法人ねおす(自然体験学校)の高木光晴氏、コーディネーターとして、フリーライターで野生動物や自然環境に関する方面で活躍している林心平氏、以上 5 名を予定している。また、事業費として、環境保全促進事業としての助成金が内定している。観察会については、6 月末の土曜か日曜、市民参加型調査は夏休み期間中を予定している。以上、来年度の柱になる予定の事業である。

2)の定例観察会について、現時点で日程が決まっているものは、5 月 14 日(土)の石狩浜マクンベツ野鳥観察会。

3)ふれあいコーナーづくりの検討について、前回の委員会で松島委員から見本園のイメージ像として提案があったが、この考え方を一部取り入れて、見本園の一角に、砂や海浜植物にふれあえるコーナーを設けていきたいと考えている。

安田 以上普及啓発の部分について、質問等ないか。

松島 海辺の風景再発見事業の中のツアー型観察会について、巡る場所は札幌小樽含むのか。

内藤 共催する各館学芸員含めて検討した。観察会には、各館学芸員に同行していただけるとのこと。ただ、時間的なものも含めてルートを検討したところ、今回は小樽方面の観察は難しいかという結論に

なった。以下、予定ルート。札幌駅北口集合、石狩市役所経由で、志美北三線へ。砂丘の植生の様子を観察した後、はまなすの丘公園へ。灯台周辺を観察の後、昼食をはさんで海浜植物保護センターと砂丘の風資料館見学。午後は、石狩川の右岸のシップ原生花園付近を観察し、石狩砂丘北端をバスで回って、石狩市役所経由札幌駅へ。札幌9時発で16時着の予定。定員は50名程度。その他詳細はこれからつめていく。

石川 参加募集人数がフォーラムで150人、観察会で50人程度ということだが、これだけの数を集めることができるか心配。

有田 去年は石狩浜での開催で参加者が60～70名。今回は札幌中心部での開催ということもあり、倍以上は想定できる。

内藤 札幌方面、小樽方面へのピーアールに当たっては、共催の札幌市博物館活動センター、小樽市総合博物館で担当していただけることになったので、そういった面からも、昨年以上のピーアール効果が想定される。

安田 札幌市の広報も使えるのか。

内藤 札幌市博でその方向で検討している。

安田 助成金はどこからでるのか。

有田 モーターボート協会からだ。新年度事業なので、現段階では内示という形。

安田 道央圏含めての問題なので、このようなフォーラムなどは札幌方面でどんどんやっていくべきと思う。おそらく反応はあると思う。

展示見本園に関する事業で、ふれあいコーナーづくりとあるが、前回松島委員が提示した見本園のイメージ図の実現に向けて取り組んでいくということか。

内藤 一部できるところから実施していくという考え。見本園の今後の全体像については、現場を見ながら現場で動く人と相談しながらでないに進められないので、現段階ではまだ具体的に議論できない。

安田 きちんとやっていくとなると一つの事業になると思うが、23年度はまだ準備段階ということか。

内藤 そうだ。一年かけて全体のイメージを固めていく。ふれあいコーナーづくりのスタートとして、こども自然教室などのプログラムの中に取り組んでいきたい。

松島 まずはそういったやり方でいいと思う。実際、子どもが活動した後、植生が生えてこないなど、問題が発生する可能性がある。こういった問題点を確認しクリアしながら、徐々に全体広げていくという進め方がよいと思う。

安田 市街地での公園花壇について、まきば保育園で数年前に海浜植物の花壇づくりに取り組んだ。その延長として、隣の公園の花壇にも増えた分を移植した経緯がある。まきば保育園さんはそういった実績があるので、発展的に取り組んでくれる可能性がある。

内藤 了解。前向きに進めていきたい。

今中 夏休みの自然教室について、参加者の人数や学校等の把握を行う必要があると昨年スタッフとして取り組んで感じた。

内藤 今年、取り組む前に名簿に書きこんでもらうなどしてもらおうようにする。

安田 では、説明資料の次の項目 2 . 保全対策以降へ。

内藤 < 資料説明 >

資料補足。3 . 地域交流事業について、昨年石狩で開催した海辺フォーラムを、場所を変えて宮城県名取市で開催する方向で名取はまぼうふうの会中心に動いている。開催予定は 6/18・19 との通知がきているが、内容詳細は未定。7 . ボランティア支援 1) について、昨秋から「仮称石狩浜ファンクラブ」として、石狩浜の保全を支える市民グループの組織作りを支援している。核になる 8 名ほどの方が、会の設立に向けて話し合いを進めている。

松島 石狩浜環境保全連絡会議の中で、利害関係者とはどのような方を指すのか。

有田 何らかの規制をしたときに、不利益を被る人たち。例えばバギー利用者など。

松島 会議への参加や意見を求める場合、組織だっていれば声をかけやすいと思うが、大部分は個人でレジャーを楽しむ人たち。個人を集約するのは難しく、会議への参加を促すのも非常に困難と思う。

有田 石狩浜のバギー利用者のほとんどはクラブ等には所属しない個人のようなのだ。だが、何か規制等する時には、クラブ等へも働きかけて意見をもらうほか、個人から意見を募る方法として、行政的には市民参加手続きという手法がある。また、新聞誌面等報道関係を利用して「規制の検討をしている」といったことを知ってもらった上で、バギー利用者の意見を寄せてもらう、などの方法も考えられる。規制という形になれば、条例なり法令なりでの規制になるので、市の条例でいえば、市民参加手続きということになる。

資料に掲載している項目については、連絡会議の中では 2 3 年度の事業として具体的にまだあがっていない。センターとしては、数年間の長いスパンでの課題と考えている。

安田 調査事業のデータベース関係につて、どれほど進んでいるのか。

内藤 はまなすの丘メッシュ図への情報落とし込みについては、センターへ寄せられた情報をセンターで落とし込む、という部分では滞っている。個人で活用して落とし込んでいただいているデータは、八

マナスやハマボウフウの分布状況などがある。

市民活動の中で活用していただくという部分については、なかなか浸透していない現状なので、改善が必要かと考えている。

松島 市民に落とし込んでもらうのであれば、使いやすい状態を設定する必要がある。紙ベースよりは、GISソフト等によるデジタルデータを用意して、直接そこに書き込んでもらうようなシステムにする必要がある。

石川 情報管理課ですでにメッシュ図を落とし込んだGISデータを持っていると思うので、それを活用してはどうか。

有田 所掌する部署の理解が必要になるが、それは難しい。センター独自でという話になると思うが(GISソフトの運用はセンター独自ではシステムのにも無理。)

安田 ホームページでの公開はされているのか。

内藤 している。ただ、今指摘を受けたとおり、利用しにくいということで活用が進まないのだと思う。どこにどんな植物があるか、という情報を落とし込むことがまずスタートと思う。現地には、ポイントを示す杭が何箇所か立っているが、それも市民レベルでの観察活動の中では活用しにくいのだと思う。大学など研究で取り組むような場合には活用できると思うが。

安田 モニタリング区の設定について、どのような調査を予定しているのか。

内藤 砂丘草原やはまなすの丘湿原部の中に、過去に調査を行った区画が点在している。その中から10区画程度ピックアップして、主要なポイントについて継続観察していくという形で再設定を考えている。実施にあたっては、ボランティアの協力を募ると思う。

2. シップ原生花園について

有田 事前にお送りした資料で、これまで議会と運営委員会の中で出てきた意見等を示した。このような経緯から、保全の必要があるという考えに基づき、平成23年度予算で保護区指定に係る経費を要求している。もともと市有地ということで、他に利用がなければ、保護区指定を前向きに検討できるのではないかとということで、土地財産として現在所管している部署と協議をしている。保護の方向で動いている、という状況。

現在、海浜植物保護地区の条例としては、石狩川河口海浜植物等保護条例として、河口地区のみを定めるもの。これをシップ地区にも適用となると、改正が必要になる。改正にあたり、こういった保護対策ができるのか、ということを考えていくことになる。資料2-2に、現在の河口地区での規制されている行為とシップ地区での規制行為の事務局案を示し、比較表にした。×は禁止項目、○は申請があって市長が認めれば可能であるという項目。

実際には、河口地区はここに書かれている以上に厳しい規制をしている。条例上は、決められた場所以

外を歩いてはいけないとは記していないが、植生保護という目的のための運用部分で、実際には決められた場所以外の立ち入りを規制している。

シップ地区を保護するとしたらどういう保護をしていくのか、河口地区と同様にするのか、もっと厳しくするのか、もう少し緩めるのか、といった部分でご意見をいただきたい。

シップは現在未規制。柵はあるが、根拠になる法令がない状況。

資料表中の×項目については原則禁止だが、市長が認めた場合は可能になる。調査での採取や外来植物除去作業等はその枠で実施している。

松島 罰則はあるのか。

内藤 条例の中で1万円以下の過料として規定している。

有田 その場で指導、説得という形をとっている。

瀬野 厚田村時代に柵を設置するタイミングで、条例等の指定はなかったのか。

有田 なかった。自主規制という形だったのだろう。

今中 車は侵入できるのか。

有田 現状では法令上は侵入の規制はない。ただ、実際の地形や周囲の状況から、侵入して走り回る車はまずない。

内藤 地元の愛好者や自然愛好家が写真撮影などで利用している可能性はある。

安田 監視員ははまなすの丘とシップを兼ねることになるのか。

有田 そうだ。ただ、現状でも人の利用がほとんどないので、監視は河口地区が主になると思う。

松島 規制項目については、河口地区と同様でいいと思う。

今中 差をつける理由を見つけるのが難しい。河口地区と同様でいいと思う。

有田 新年度入ってから条例を変える手続きを進めることになる。改正案をつくり、環境審議会の答申、議会での承認を経て改正となり、告示後に指定ということになる。手続き期間を踏まえると秋以降の改正となり、保護区化は平成24年度からということもありうる。

内藤 次の運営委員会開催は5月か6月になると思う。

以上

確認しました。 平成23年3月14日
石狩浜海浜植物保護センター
運営委員会 会長 安田秀子